

# 事業報告

## 令和4年度 学校・家庭・地域による「学びの未来」創造事業 放課後児童関係者研修会

日時:令和4年9月29日(木)

会場:大分県立図書館 視聴覚ホール

参加者:92名【社会教育関係6市町(17):子ども未来課関係13市町(75)】

### <研修趣旨>

放課後子供教室や放課後児童クラブ、児童館等の連携による子どもの安全・安心な放課後の実現に向け、研修を通して、子どもに関する様々な課題について関係者の相互理解を図るとともに、今後の効果的な運営及び活動内容の充実につなげる。

### 【開会行事】



主催者あいさつ  
大分県教育庁社会教育課 課長 森山 貴仁



開会行事・研修Ⅰ  
会場:県図書視聴覚ホール

### 【研修Ⅰ(講義)】

「障がいのある子どもの理解と接し方」



演題:「障がいのある子どもの理解と接し方」

大分県発達障がい者支援センターECOAL  
副センター長 田中 秀征 氏

近年障がいをもっていると考えられる子どもの参加が多く、その理解と接し方について困りを抱えている関係者が多いとのことで、今回のテーマを設定した。

障がい者に「いい大人になってほしい」ということをメインテーマとしてご講義いただきました。子どもが「いい大人になる」、「社会に出て愛される大人になる」、そのためには、まず大人が子どもを受け入れて、その個性を理解することが大切であり、このことは障がい者も健常者も同じである。しかし、障がい者の場合、この個性を大人がより強く理解し、一人ひとりを大切に接する姿勢がより大切ということがわかりました。

【研修2（情報交換）】 ※4人の少人数グループで実施

研修1（講義）を受けての意見交換  
及び「事前ワークシート」を持ちよっての意見交換



参加者からの要望を踏まえ、今年度の方針として、「放課後の時間確保のための時間設定をする。遅くとも12時30分に終了。」「グループワークの時間の確保」を考えながら、研修を組んだ。県立図書館の開館時間が9：00で、9：40からの研修開始が最も早い時間設定である。また、グループワークも研修室に分かれることなく、視聴覚ホールに分散して実施。テーマも講義に即したものに焦点を絞ることにした。少し騒がしい中でのグループワークでしたが、熱心に話し合いが行われたようであった。グループワーク終了後、話し合いでは解決できなかったことについて講師が質問を受け、お答えする時間をとった。実際の困りに対する解決の示唆を与える形となり、参加者にとってはよかったと思われる。時間が超過したことについては申し訳なく感じています。

<参加者感想>

- 講師の先生のお話を聞いて、たくさん思い当たることがあり、とても勉強になった。障がいのある子に対して、よりよい支援をしていきたいと思います。
- たくさん子どもと接してこられた田中先生のお話は、学童の現場で必要な動き方ばかりです。毎回聞くたびに身を改めています。
- 障がいがあるという事の根本から考えさせられるお話でした。
- 意見交換も大事だけど、講師の話をもう少し詳しく聞きたい。60分でなく90分くらいはほしいと思いました。4人での意見交換もすごく充実した時間でした。質問タイムも答えがすごく参考になりました。
- 現場での困りごとが尽きなので（質問時間）先に質問をとって主催者が集約してそれを基に話してもらう方がよかったのでは。
- 参加者が（各所属から）数人参加できるように土曜日に開催していただきたい。
- 終了時間は守って欲しい。